

パフォーミングアーツ・ウェーブ

4. 県民参加型公演『金の文化祭 in AICHI ～Golden Anniversary～』

* 愛知芸術文化センター開館 20 周年記念

日 時：2012 年 11 月 3 日（土）①14：00～15：50 ②19：00～20：50

2012 年 11 月 4 日（日）③13：00～14：50 ④17：00～18：50

※④公演終了後、30 分ほどアフターイベント後夜祭を開催

場 所：愛知県芸術劇場小ホール

スタッフ・出演者：

構成・演出：杉原邦生

出 演 者：愛知を拠点に活動を行う若手アーティストなど、一
般公募によって集まった 12 歳～72 歳の男女 32 名



ロビーの様子

愛知芸術文化センター開館 20 周年として、10 周年・15 周年に続いて、新しく出演者を広く公募し、約 1 か月にわたるクリエイションを経て、記念作品を創作・上演した。今回は、制作スタッフも公募し、演出助手やロビー装飾に携わってもらった。

構成・演出を行ったのは、新進気鋭の演出家、杉原邦生氏である。杉原氏が創り出そうとしたのは、「参加する人たち全員が輝く、まるで、学生時代の〈文化祭〉のような時間」だった。愛知を拠点に活動を行う若手アーティストなど、公募により集まった 12 歳～72 歳の男女 32 名は、10 月より 26 回の練習を経て、約 80 分の舞台作品を上演した。

開場時に、ロビーでのいわゆる文化祭の模擬店のような賑やかな雰囲気の中から始まり、演劇・合唱・ダンス・手品など 14 の小作品のオムニバス作品として仕上げられた。各小作品は、杉原氏がこの「文化祭」シリーズで常用している台本やシーンを元に、集まった出演者の持ち味や学生時代の体験を織り交ぜ、また、出演者たちの顔ぶれ・特技を見てから新しいシーンを加えて構成された。杉原氏の指導の下、厳しく稽古が重ねられたが、その間、そのシーンに出ない出演者たちは自分たちで練習を重ねた。作品は手作り感満載で、全体的にはエネルギッシュで楽しく、子どもから高齢者まで、笑いあり涙ありの楽しみ共感できる内容で、20 周年にふさわしい演目となった。

なお、その制作過程は、2012 アートマネジメント実践実習の体験対象事業とし、実習生に広報・稽古場管理・当日運営などに関わってもらった。



公演・集合写真撮影：清水俊洋